

こしえるびと

つむぐストーリー vol.108

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。
“黄金の郷”いわて平泉を支える、魅力溢れる“こしえるびと”の
メッセージをシリーズで紹介していく。

公務員から農業の道へ

田園地帯の中に広がるリンゴ団地。団地の一角に鈴木浩平さんのリンゴ園がある。今年から栽培を始め、初めての収穫を間近に控えたリンゴを見つめる。

高校を卒業後、一関市役所に就職し、税務、福祉などの部署を経て農林部農政課に配属されると、農作業体験や農業祭などのイベントを通して「楽しい」と実感した。同時に担い手不足の現状を知り、「自分が力になれないか」と就農を考えるようになる。県立農業大学の新規就農者研修に通いながら品目を模索し、新規就農の担当者と相談を重ねた。お酒が好きで醸造にも興味があった浩平さんは、「シードルを作ろう」とリンゴを選択。将来はブドウを栽培してワインを造ることを目標に、2022年3月に退職。果樹部会長

である小岩克宏さんの下で約10カ月間の研修を積んだ。花泉町金沢の花泉中央りんご生産団地内のリンゴ園を借り、今年2月、農業の道の第一歩を踏み出した。

周囲の支えを感じながら 1年目が経過

浩平さんが最初に手掛けたのは、果樹栽培で重要とされる剪定作業せんてい。十分な研修ができなかったが、同じ団地内の生産者から指導を受けた。農業散布や草刈りは、トラクターやスピードスプレーヤーなどの大型の農業機械を使う。浩平さんは、リンゴ園を借りると同時に機械を譲り受け、保管庫を共有する生産者に教えてもらいながら操作方法も一から覚えた。

今年ほとんどの作業を一人でこなし、作業時間を記録した手帳を見

ながら来年に向け、改善点を洗い出している。植栽されていない土地も60㍓ほどある。作業のバランスを考えつつ、有望品種の導入と規模拡大を視野に入れている。

夢は醸造所を造ること

「子どもの頃は祖父母の野菜作りを手伝っていた」と振り返る浩平さん。最近は農業に関わる子どもが少なくと感じ、体験学習にも取り組みたいと前向きに考えている。

ワイン製造を目標にしているからは、ブドウ栽培者やワイナリーへの視察も行っている。「ワインは農産物。いつか醸造所を造り、自分で生産した原料からワインを造って販売したい」と意気込む。

「所得を上げ、農業が魅力的な産業であることを自ら示したい」。浩平さんの挑戦は始まったばかりだ。

農業の魅力をもっと示したい

一関市三関

鈴木浩平さん



PROFILE

鈴木 浩平さん (40)

Kohei Suzuki

一関市三関

1983年一関市生まれ。市内の高校を卒業後、一関市役所に入庁。農林部農政課での仕事を通して農業に興味を持ち、2022年退職し就農。リンゴ71畝。妻と2人暮らし。